

平成 21 年度後学期学生による授業評価アンケート調査（最終）

「アンケート結果に答えて」

所属部局	人文学部		氏名	大橋慶士
講義コード	2279229010		講義名	会計学特論
開講曜日	火曜日	11・12 時限	専門科目	
授業回数 15回	休講回数 0回	補講回数 0回	受講登録者数 31人	
成績評価に際し注意した事項				
客観試験と記述試験を組み合わせ、評価に関しては公平性を保てるよう評価した。				
報告内容				
<p>カルテ中 第 4 象限のうち 1 象限に属する項目（学生が重要であると考え、その満足も高い項目は 5 項目、第 2 象限に属する項目（学生はさほど重要ではないと捉えているが、満足度も高い項目）は 3 項目であった。</p> <p>特に問題となるのは、第 4 象限の項目であるが、これについては 2 項目であり、内容としては設問 7 と設問 9 である。</p> <p>設問 7 は「学生の反応を確かめながら講義をしていますか」であり、これについては講義では質問をしながら講義を行っていました。しかし、使用したテキストの内容が難しかったこともあり、特に夜間生の学生の中には読みこなす力が不足している、あるいは事前に読んでいないこともあり、不満があったのではないかと感ずる。夜間生だからといって講義内容についてレベルを低下させることは本来したくない。受講人数が少ないので顔を確かめながら講義をしたつもりであったが、固定客とたまに出席する学生とに評価の違いが現れている。</p> <p>設問 9 は「教員は学生の質問や相談に応ずる姿勢や配慮がありましたか」であり、これについても心がけたつもりであるが、評価は低かった。これについても使用教材の難しさが影響しているのではと考える。</p> <p>記述式について声が聞き取れないとあるが、固定客の学生からは逆の評価を受けており、出席回数に対する回答について正当な回答をしていない学生もあると考えられる。</p> <p>評価の低い項目については改善をしていくことを心がけていくつもりであるが、学生の授業への取組姿勢に対する調査も反面実施をお願いしたい。両方が改善していかないと学生の顧客満足度だけを考慮すると、教育そのものの改善にはつながらない。両者は車の両輪である。</p>				